

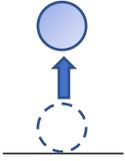
## 《Lesson 5》新しい前置詞

ここ学ぶのは以下の前置詞。ポイントは「前置詞をイメージすること」です。

(1) **up** = 上のほうへ/ 上へ (に) / 上がって (ものが上がるイメージ / 上にあるイメージ)

<例> You need to **get up** now. (あなたは今起きる必要があります)

Please **stand up** (立ち上がってください)



【up の反対は、down (下がる)】

「座ってください」という場合 **sit down** というフレーズがよく使われますが、あれは立っている状態から下がるため、sit のあとに down が足されます。

<例> Please **sit down**. (座ってください)

(2) **over** = ~の上方に/ ~の上をおおって / ~超えて (弧を描くように覆うイメージ)

<例> Can you jump **over** the fence? (柵を飛び越えられますか?)

We need to go **over** the mountain. (私たちは山を越える必要があります)



(3) **under** = ~の下に / ~の真下に (何かの真下にあるイメージ / 接触していても離れていてもOK)

<例> Let's go **under** the bridge. (橋の下に行きましょう)

You can put this **under** the table. (これをテーブルの下に置くことができます)

前置詞 under のイメージ

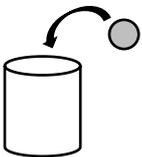


<http://phrase-phrase.me/keyword/preposition-under>

(4) **into** = (内部に向かうように) ~の中に (へ・に向かって) (内部へ入っていくイメージ)

<例> I want to go **into** the house (家の中に入りたいです)

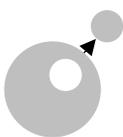
Let's jump **into** the pool. (プールに飛び込みましょう)



(5) **of** = ~の/ ~の所有する/ ~に属する (ある物の一部といったイメージ)

<例> What is the number **of** your classroom? (あなたの教室番号は何ですか?)

What is the name **of** your dog? (あなたの犬の名前は何ですか?)



## 【注意事項】

1. **the**○○**of** ~ (the number of など) のように、最初に **the** が使われることが多い。その理由は、その後の**of** で「何の○○なのか」限定されているから。しかし **some** や **any** といった単語には基本的に **the** はつけられないので注意。

<例> **the** number of your bus (あなたのバスの番号)

<番号なら何でもよいのではなく、「あなたのバスの番号」と限定されている>

**some** pictures of the library (何枚かの図書館の写真)

<the some とは言えないので the はつかない>

2. 日本語に訳す場合、**of** の後ろが「～の」となり、英語と順番が逆になるので注意。「後ろから訳す」と教える先生も多い。

<例> the number of your bus →英語の順番は「番号、あなたのバスの」

the name of your dog →英語の順番は「名前、あなたの犬の」

## (6) **near** = ～の近くに / ～の近く / (周りにあるイメージ)



<例> My house is **near** the station. (私の家は駅の近くです)

Is the library **near** the supermarket? (図書館はスーパーの近くですか?)

【near と似た意味で使われる close to 】

near と似たような意味で close to という表現もよく使われます (close は「近い」という意味)。

<例> My house is **close to** the station. (私の家は駅の近くです)

Is the library **close to** the supermarket? (図書館はスーパーの近くですか?)

本ファイルの著作権は、著作者である藤井拓哉に帰属します。本ファイルを利用したことによる直接あるいは間接的な損害に関して、著作者はいっさい責任を負いかねます。利用は利用者個人の責任において行ってください。